

広報

よっかいち

YOKKAICHI

7

No.1360 7月上旬号

平成24年(2012年)7月5日発行

編集・発行/四日市市役所広報広聴課
〒510-8601 四日市市諏訪町1番5号
市役所電話番号案内 ☎354-8104



インターハイへ向けて 前へ!前へ!

●表紙「スポーツで頑張る市民」
朝明高等学校自転車競技部

特集

未来に豊かな環境を引き継ぐために
～環境先進都市を目指して～

未来に豊かな環境を 引き継ぐために

～環境先進都市を目指して～

四日市市は、コンビナートの立地によって、日本のものづくりを支える重要な産業都市として栄えてきた一方で、四日市公害が発生しました。その後、今日まで、市民、企業、行政が一体となって、環境改善のまちづくりに取り組んできました。四日市公害裁判判決から40年たった今、当時を振り返るとともに、環境先進都市を目指す上で、本市が取り組んでいる地球温暖化防止対策（エネルギー対策やCO₂削減）、ごみ減量策などを紹介することで、市民の皆さんに環境問題を身近な問題として考え、取り組んでもらえるよう特集します。





コンビナートの建設

高度経済成長期、国は「石油化学工業の育成対策」を掲げ、その一つとして、1955(昭和30)年に、塩浜地内にある第二海軍燃料^{しょう}廠(※1)跡地への石油化学コンビナート建設を決定しました。

石油化学コンビナートは、市の経済を支えるだけでなく、日本の経済発展に重要な役割を果たしました。

(※1)戦争に必要な燃料を製造するための施設

公害問題の発生

1955(昭和30)年ごろからは、川崎市や千葉市、大阪市などの工業地帯を中心に、全国各地で大気汚染や水質汚濁などが大きな社会問題となりました。四日市市でも、1959(昭和34)年の第1コンビナート稼働直後から、大気汚染が大きな問題となり、多くの人が「ぜんそく」などの呼吸器の病気で苦しみ、亡くなられた方も少なくありません。



昭和40年代のコンビナート

公害対策と環境改善

市単独による医療費救済制度や、四日市公害裁判などのさまざまな取り組みは、その後のわが国の公害対策に大きな影響を与えました。

また、1972(昭和47)年には、硫黄酸化物の排出総量を規制した全国初の「総量規制」の導入によって、徹底して環境改善に取り組んだ結果、1976(昭和51)年には「ぜんそく」の主な原因とされる二酸化硫黄濃度は、国の環境基準を市内全域でクリアするようになりました。



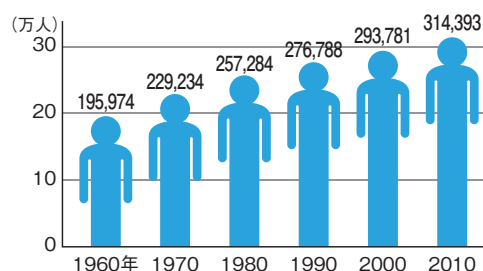
現在のコンビナート

環境に配慮したまちづくり

四日市公害の発生後、新たに霞ヶ浦地区に整備した第3コンビナートでは、出島方式を採用するとともに、内陸部への住宅団地造成も推進し、住工分離を図りながら、現在の四日市市の骨格を形成してきました。

このような取り組みの結果、全国有数の産業都市としての発展とともに、豊かな自然も残し、人口も安定的に増加してきました。

■四日市市の人口推移(各年10月1日現在)



産業の再生

高度経済成長期の四日市市の経済を支えてきたコンビナートも、時代の移り変わりとともに、大きく転換してきました。かつては、包装材料、家庭用品など幅広い用途に使われる合成樹脂を大量に生産していましたが、次第に自動車、電子、電機などの製品に欠かせない最先端の高度部材の生産へと転換し、環境負荷低減も進められました。

都市・生活型公害の増加

環境改善の取り組みが進み、産業型の大気汚染が大きく改善した一方で、自動車の排出ガスなどの都市・生活型の大気汚染は改善が進んでいないのが現状です。従って、まだ完全に公害を克服したとは言えない状況であり、今後も環境改善の歩みをさらに進めていく必要があります。

全国に先駆けた環境改善の取り組み

ここで、四日市公害に関する歩みを振り返ってみます。四日市公害は、その被害だけではなく、公害克服に向けた市民、企業、行政が一体となった取り組みに特筆すべきものがあり、それが、全国の公害対策や環境改善の参考例とされています。

患者救済医療制度

四日市市で大気汚染によるぜんそく患者が発生する以前から、全国でも同じような疾病が起こっていましたが、当時、疫学的に大気汚染との因果関係が認められておらず、こうした患者は高額な医療費を自己負担し、治療するしかありませんでした。

その中で、四日市市は、1965(昭和40)年5月から、市単独による医療費救済制度を開始しました。この制度は、日本で初めての公害患者

の救済制度であり、後に国によって、「公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法」、「公害健康被害補償法」として制度化され、この補償給付に必要な費用の多くは、大気汚染物質の硫黄酸化物を排出する一定規模以上の事業所からの負担金が充てられることになりました。この法律により、市内約2千人の公害認定患者だけでなく、全国で約19万人の公害認定患者が救済されることになりました。

高煙突化

1963(昭和38)年に国から派遣された黒川調査団(※2)より、「大気中に排出されるガスを拡散希釈するための具体的検討をすること」などが勧告され、これを契機に各企業は高煙突化を進めました。

この結果、特に被害の大きかったコンビナー

ト周辺の二酸化硫黄の濃度は大幅に低下したため、四日市以外の工業地帯でも、大気汚染防止策として、まず高煙突化が進められるようになりました。

(※2) ばい煙に関する規制を定めた当時の法律を、四日市地域へ適用するかを検討するための調査団

都市改造のためのマスタープラン

1958(昭和33)年、工業化が進む本市の将来の都市像を描く「四日市総合開発計画の構想」が、高山英華氏^{えいけい}などの著名な都市計画の専門家の参画を得て策定されました。さらに1966(昭和41)年には、公害問題に対応する土地利用のあり方を示す「都市改造のためのマスタープラン」が策定され、これらの計画に基づき、臨海部の工業地帯と住宅地帯との分離が進められました。市では、財団法人四日市市住宅公社(後の四日市市開発公社)を設立し、高花平団地をはじめとして、あさけが丘団地、坂部が丘団地、三重団地などの開発を進める一方、日本住宅公団による笹川団地開発も行なわれました。

また、1972(昭和47)年に稼働した霞ヶ浦地区の第3コンビナートは、出島方式の採用や緩衝緑地(霞ヶ浦緑地)の整備とともに、最新

式の公害防止設備や排水処理施設の共同化などを進め、進出全企業と本市との間で公害防止協定を締結しました。

こうした取り組みの結果、産業が空洞化することなく、また人口も減少することなく、バランスのとれた成長の中で、今日の四日市市に至っています。



出島方式の第3コンビナート(霞ヶ浦地区)

公害裁判

1967(昭和42)年に第1コンビナート企業6社を相手に9人の公害認定患者が裁判を起しました。

この裁判は、全国各地が抱える大気汚染問題について、全国で初めて複数の工場の共同不法行為を争った裁判であったことから大きな注目を浴び、後に四大公害裁判として位置づけられました。

この裁判は、1972(昭和47)年7月に「ぜんそくの原因は工場から出る煙」と認め、原告勝訴の判決が下されました。企業もこの判決を重く受け止め控訴せず、5年という短い期間で結審しました。

この結果を受けて、国は公害健康被害補償法を制定することとなり、原告だけでなく、全国各地の大気汚染公害で苦しむ被害者を救済することになりました。

また、その後の大気汚染防止法改正など、国の環境に関する法整備に大きな影響を与え、全国で良好な環境を取り戻すきっかけとなりました。

公害防止対策

1965(昭和40)年頃から、各企業は、高煙突化に取り組む一方で、根本的な発生源対策として、低硫黄燃料への転換と排煙脱硫装置(※3)などの開発に取り組みました。

さらに、1970(昭和45)年に三重県により策定された「四日市地域公害防止計画」は、2010(平成22)年に終了するまで、8期にわたり各種公害防止施策を実施しました。この間、行政は公共下水道や緑地などのインフラ整備に、企業は脱硫装置などの公害防止機器の開発、導入に力を入れ、官民合わせて9,837億円の巨費を投じて、着実に環境改善を進めてきました。

(※3) ぜんそくの主な原因と考えられた硫黄酸化物を、煙から取り除くための装置

公害裁判原告の一人
野田 之一さん(磯津地区)



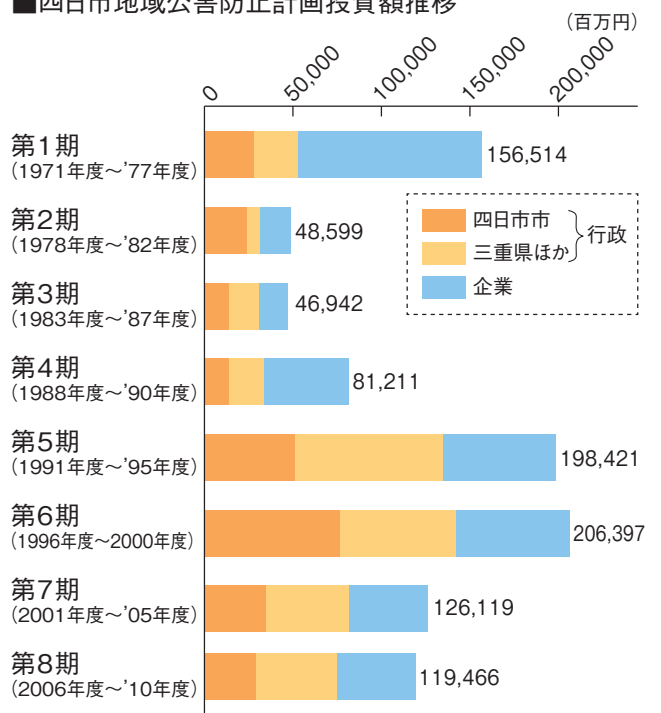
戦後の貧しい時代に、コンビナート建設により産業を発展させ、生活が豊かになった一方で、多くの人が「ぜんそく」で苦しみました。私もその一人で、このままでは死んでしまうと思い、やむなく裁判を起しました。

裁判には勝ちましたが、すぐさま公害がなくなる訳ではないので、「まだありがとうは言えない」といった覚えがあります。

その後、行政や企業も努力し、現在は、ここで獲れる魚も昔と同じ味がするまで環境は改善されてきました。

もう二度と公害を起こさないためにも、これからは、四日市公害の教訓を、次の世代の人たちに伝え、公害の無い健康で豊かな社会を守っていきたいです。

■四日市地域公害防止計画投資額推移



硫黄 酸化物 総量規制

1972(昭和47)年、「三重県公害防止条例」が全面的に見直され、施行されました。当時「大気汚染防止法」が煙突ごとに濃度を規制したのに対して、四日市地域全体の硫黄酸化物の排出許容総量を規制し、工場ごとの排出総量を個別に規制する全国初の「総量規

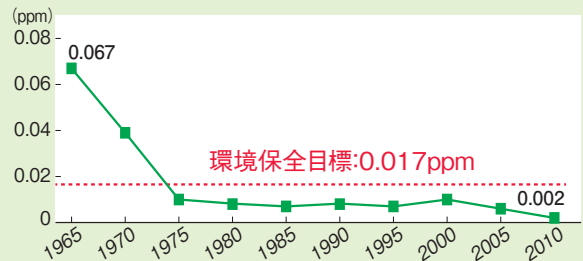
制」の考え方が導入されました。

この考え方は、その後の国の公害行政に引き継がれ、窒素酸化物総量規制や水質汚濁に対するCOD(化学的酸素要求量)総量規制が行われることになりました。

このように市民、企業、行政が一体となって環境改善に取り組んだ結果、本市の環境は大きく改善され、「ぜんそく」の主な原因とされる二酸化硫黄濃度は、1975(昭和50)年に磯津地区では県の環境保全目標をクリアしました。

また、1976(昭和51)年には、国の環境基準を市内全域でクリアするようになりました。

■二酸化硫黄濃度(年平均値)の経年変化(磯津地区)



知識と経験を世界へ、未来へ伝達

国際環境技術移転センター(ICETT)の設立

1990(平成2)年に、環境改善の過程で培われた産業公害防止に関する技術や知識を諸外国に伝え、地球環境保全に貢献することを目的として、四日市市は、三重県および中部経済界と連携し、官民あわせて62億円を投じて、現在の「国際環境技術移転センター(ICETT)」を設立しました。2012(平成24)年3月末までに、中国からの518人、インドネシアからの286人をはじめ、89カ国、2,296人の研修生を受け入れています。こうした取り組みが評価され、1995(平成7)年には、国連環境計画(UNEP)から「グローバル500賞」を受賞しました。



「(仮称)公害に関する資料館」の整備を進めています

未来に豊かな環境を引き継ぐために、四日市公害の歴史を忘れず、これまでの市民、企業、行政が一体となって行ってきた環境改善やまちづくりの歩み、現在の本市の環境、さらには市内に蓄積された知識や技術、経験などを広く情報発信する拠点として、「(仮称)公害に関する資料館」(名称は現在検討中)を整備していきます。その際、既存の公共施設の有効活用も図っていきます。

(仮称)公害に関する資料館の基本コンセプト

過去を知り学ぶ

現在を見つめ直し、発信する

未来に役立つ

環境先進都市に向けた取り組み



四日市公害からの環境改善のために、市民や市民活動団体、企業などあらゆる主体が協働して、「快適生活環境社会」「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向けた環境先進都市を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

子どもたちへ環境教育

市内の小学校では、平成21年度から、県および企業と連携して、「こどもよっかいちCO₂ダイエット作戦」に取り組んでいます。企業の社員を講師に迎え、CO₂削減を目的とした地球温暖化についての授業を行い、家庭での地球温暖化防止活動の実践を促進しています。平成24年度は、7校で実施する予定です。



塩浜小学校での授業

塩浜小学校4年生担任
大田 智美先生



現在4年生は、授業で環境・ごみ・水について学んでいて、自分たちにできることは何かを考えているところです。この授業では、具体的な材料を使って専門的な知識を学べるだけでなく、講師でいらっしゃった地元企業の方から働くことについて実体験を聞く機会を持つことができるなど、子どもたちにたくさんのメリットがあります。子どもたちがこの取り組みを続けていくことで、環境への興味、関心の広がりが期待できると思います。

異業種合同で環境保全に

霞ヶ浦地区環境行動推進協議会〔通称：^{キャブス}KIEP'S(kasumi island environmental plan)〕は、霞ヶ浦地区の第3コンビナートの企業などが協働し、地球温暖化防止に向けた活動をしています。異業種間で共同して実施していること、また企業主導であることなど、全国的にも珍しい事例です。

エコ通勤デーの実施

月1回、通勤方法を公共交通機関や自転車など、環境負荷の低い交通手段に変更しています。また、企業ごとに運行していた通勤バスを利用率と効率性の向上のために共同運行するなどの取り組みも行っています。他にも、月1回のライトダウンの実施や、エコドライブも推奨しています。

新エネルギーなどに対する支援

市では、中小企業や家庭向けに、CO₂などの温室効果ガス排出削減を目的とした新エネルギー設備などの導入・設置費用の一部を支援しています。

- 中小企業新エネルギー導入等促進事業
対象は、太陽光・風力発電、LED照明などの新エネルギー等設備の導入、空調、照明などの省エネルギー設備への更新です
- 家庭用新エネルギー等普及支援事業
対象は、太陽光・風力発電、燃料電池システムの設置です



太陽光発電設備を設置した牛舎

※詳しくは、環境保全課(☎354-8188)へお問い合わせいただくか、ホームページ(<http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu73246.html>)をご覧ください

ちょっとした気配りで節電を

今年も昨年に続き、夏場の電力不足が懸念されます。一人ひとりがこれまでの生活を見直し、少しでも節電に努めることが、CO₂の削減に、そして地球温暖化防止にもつながります。ぜひ、皆さん、節電に取り組みましょう。



家庭でできる節電

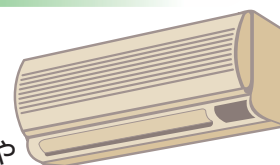
照明器具

必要のない照明器具のスイッチはこまめに切ろう！
買い替えのときは、省エネ型照明器具をえらぼう！



エアコン

冷房設定温度は28℃に！ よしずやすだれ、グリーンカーテンを使って、室温を下げよう！
(室内でも熱中症になる場合があるので、無理のない範囲で実行しよう)



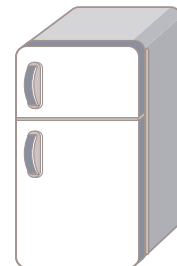
テレビ

消すときは主電源をOFFに！
音は必要以上に大きくしないようにしよう！



冷蔵庫

詰め込み過ぎないように！
開いている時間を短く、余分な開閉はしないようにしよう！



節電のワンポイント!

グリーンカーテンを推進しています

市では、市民団体などと協働して、保育園、幼稚園、小・中学校などで、ゴーヤなどのつる性植物を窓の外に這わせた植物のカーテン「グリーンカーテン」の普及に取り組んでいます。

このグリーンカーテンは、直射日光を遮ることや、葉の蒸散作用で部屋を涼しくする効果が期待できます。

※「グリーンカーテン」の普及の取り組みには、レジ袋有料化による収益金を活用しています



昨年の桜台小学校

節電しながら^{ひかりがい}光害防止に取り組もう

光害とは、過度な夜間照明により、天体観測や睡眠、農作物の生育、野生生物の成育などへの影響があることです。周辺環境や景観に配慮した光環境を創りだすことが、省エネ・節電対策になり、地球温暖化防止にもつながります。

市では、市民活動団体などと協力して「星空観察会」や「キャンドルナイト」などを開催し、意識啓発に努めています。



1,000,000人のキャンドルナイトinすわ公園



しっかりごみ減量

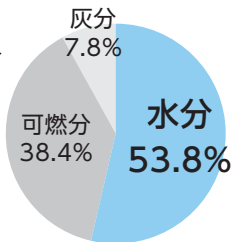
限られた資源の有効活用や省エネルギーのために、家庭から出されるごみの減量とリサイクルの推進に、みんなで取り組みましょう。

出す前に、水切りを十分に

「もやすごみ」の成分は約半分が水分です。生ごみは一晩流しに置いて捨てるなど、しっかり水切りすれば、ごみの減量とともに、ごみ処分場の処理効率も向上します。



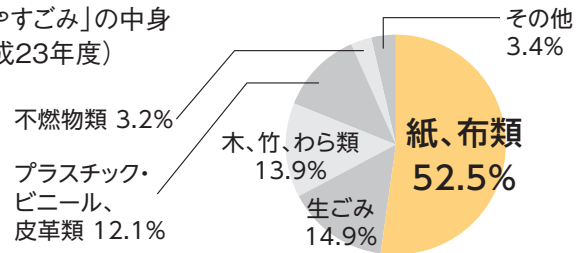
■「もやすごみ」の成分
(平成23年度)



きちんと分別して資源に!

「もやすごみ」の中身は、紙、布類が約半分を占めています。小さなお菓子の箱でも、開いてハガキより大きければ、資源として出せます。

■「もやすごみ」の中身
(平成23年度)



エコステーション設置促進事業

市では、スーパーの駐車場などに資源物の回収拠点を設置し、管理運営するNPO団体などに、回収量に応じた補助を行っています。市内2カ所にあるエコステーションも積極的に活用してください。



土曜日でも利用できて、とても便利です。



係りの人もとても親切なので、毎回、利用しています。

開催場所	開催日時	回収品目	実施団体
一号館小牧店 (駐車場敷地北側部分)	毎月第1・3土曜日 9:30~12:30	新聞・チラシ、雑誌・雑紙、ダンボール、紙パック、布・衣類、アルミ缶、スチール缶、びん(無色・茶色・その他の色)	社会福祉法人鐘和 <small>しょうわ</small> フェアワークス下野
日永カヨー (北駐車場側別館前)	毎週水・土曜日 10:00~16:00	新聞・チラシ、雑誌・雑紙、ダンボール、紙パック、アルミ缶、スチール缶、びん(無色・茶色・一升びん・ビールびん)、ペットボトル、食品トレイ、布類、てんぷら油、バザー一品	NPO法人 みどりの家

新しいごみ処理施設を建設します

市では、現在の、極めて老朽化したごみ焼却施設を更新するため、平成28年度の稼働を目標に「新総合ごみ処理施設」の整備を進めています。今まで直接埋め立てていた不燃・粗大ごみの中の、廃プラスチック類や破碎選別した可燃物を焼却処理することで、“もやさないごみ”を大きく減らすとともに、焼却エネルギーをできる限り回収し、発電などへ有効活用する予定です。

取材を終えて

四日市公害裁判判決から40年、いまだ、全国的には「公害のまち」からのイメージ転換ができていません。公害は二度と起こしてはならないものです。そのことを深く胸に刻み、四日市における公害克服のための取り組みを誇りとし、四日市公害の歴史と今の四日市の姿を、全国に正しく伝えていく責任があると強く感じました。(環境保全課 堀内、生活環境課 前川、広報広聴課 堀田・渋谷)

投票箱の番人?!投票立会人

ひょっとして投票所に番人のような人がいて、にらまれたなんて感じた人もいるかもしれません。

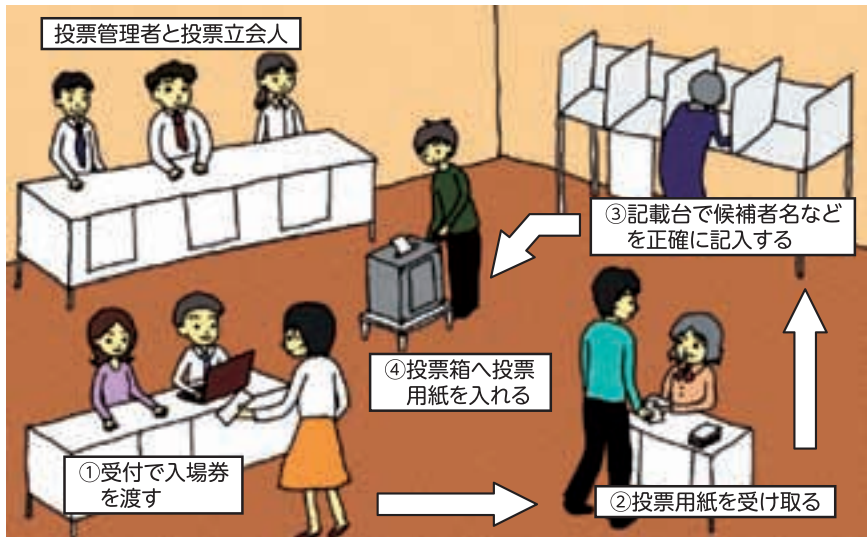
投票所には、投票管理者と投票立会人という役割の人がいます。

投票管理者は、投票所の責任者です。

投票立会人は、投票が公正・確実に行われているかを見届ける人で、地域の人にご協力いただいています。

使命感をもって従事していただいていますので、にらまれたなんて思わないでくださいね。

投票日当日は、指定された投票



所で、7:00から20:00まで投票することができます。

上図が一般的な投票の流れとなりますので、覚えておいてくださいね。

問い合わせ先
選挙管理委員会
(☎354-8269 FAX359-0286)

郷土史への扉

市内の文化財などをたどりながら、郷土の歴史を紹介するコーナーです。今回は、最近発掘調査が行われている「中野山遺跡」を紹介します。

中野山遺跡は、下野地区北山町の丘陵上にあります。縄文時代の人々が火を焚いた炉の跡が見つかりました。煙道付炉穴や集石炉とよばれる炉の跡が確認されており、数では県内で最多となりました。また、縄文時代初め頃(約一万年)の檜の穂先(有舌尖頭器)や縄文時代の終わり頃(約2,500年前)の土器棺(棺おけとして使用した土器)が見つかりました。野性の動物や植物を食料にしていた縄文時代の人々にとっ

て、木々がたくさん生えていた丘陵上は、食料が手に入れやすく生活しやすい場所だったようです。



ほかにも弥生土器や古代の竪穴住居、掘立柱建物なども見つかり、丘陵上には、さまざまな時代に、集落が広がっていたことがわかりました。

また、飛鳥時代から奈良時代の竪穴住居などからは、鞆羽口(送風器

の口)や鉄滓(鉄を加工する際に生じる屑)などがみつかりました。この地域は「大鐘」という地名が残り、古代の文献にも朝明郡に「大金郷」という地名があったと記されていて、鉄の加工技術(鍛冶)を持つ人々の集落があったこととの関わりが感じられます。

現在、市内には500以上の遺跡があります。お近くの遺跡について調べてみてはいかがでしょうか。

問い合わせ先
社会教育課
(☎354-8240 FAX354-8308)

有料広告掲載欄

Channel
CTY
地上デジタル12ch

この夏もCTYで高校野球を応援しよう!

7月9日~

『熱中YELL』放送スタート。北勢地域の各出場チーム紹介、県内4球場の試合結果ダイジェストをお送りします。

7月13日~

四日市市宮霞ヶ浦第一野球場より、試合を生中継!(開会式~準々決勝まで)

※悪天候などにより、放送が変更になる場合があります。

お問い合わせはこちら
0120-30-6500
9:00~19:00(日曜・祝日除く)

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。

私の好きな 四日市

市民の皆さんから市内のすてきな風景や、ちょっとお茶目なお子さんの写真を寄せていただくコーナーです。今回はどんな写真かな？



▶▶天カ須賀にお住まいの藤川晃一さんからの投稿
コンピナートの定期修理のときに撮影した幻想的な写真です。煙突からの炎がとても海に美しく映えています。



▶▶伊坂台にお住まいの釜田真一さんからの投稿
お子さんの^{たいが}泰雅くんが2歳の誕生日前に富双緑地で撮影した写真です。泰雅くんは誕生日を迎えるにあたって、四日市港ポートビルに「何を誓ったのでしょうか」

お知らせ

リニューアルした「広報よっかいち」に対する
意見をお寄せください！

より親しまれ読まれる広報紙を目指し、4月上旬号からリニューアルして4カ月目に入りました。そこで、リニューアルした広報よっかいちに対する市民の皆さんのご意見をお聞かせください。広報よっかいちを市民の皆さんと一緒に魅力のあるものにしたいと考えていますのでよろしくお願ひします。



私たちが作っています！

ご意見の募集方法

- ・市のホームページ<http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu75292.html>またはQRコードよりアンケートにお答えください
- ・アンケート用紙は、広報広聴課と各地区市民センター、楠総合支所にもありますのでそちらでもお答えいただけます
- ・広報広聴課に郵送、電話、ファクス、またはメールで意見をお寄せいただくこともできます
〒510-8601 広報広聴課（市役所8階）☎354-8244 Fax354-3974 ✉kouhoukouchou@city.yokkaichi.mie.jp



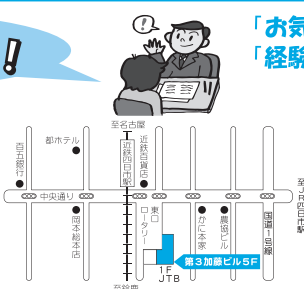
有料広告掲載欄

お困りではありませんか？
早めのご相談を！

例えば…

- 交通事故・示談の話が進まない…
- 借金・毎月の返済に追われています…
- 相続・兄弟でもめてしまっています…
- 離婚・調停や裁判の対応はどうすれば？
- その他 慰謝料・不動産・会社法務など

近鉄四日市駅から徒歩1分！南改札口(東口)すぐ！
四日市市浜田町5番27号 第3加藤ビル5階
(1階にJTBが入ったビル)



「お気軽にお電話ください」 土曜日や夜間も対応可(要予約)
「経験を積んだ弁護士が迅速&丁寧に対応します！」

- ◆交通事故・借金問題のご相談は無料です◆
- ◆一般法律相談料(初回) 30分 5,250円(税込)◆

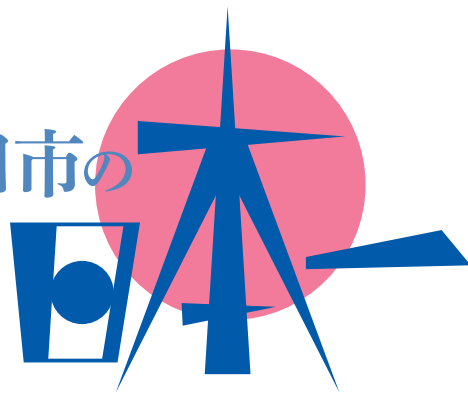
《予約制》☎059-350-2080

おいち
尾市法律事務所

弁護士 尾市淳二 (三重弁護士会所属)
(財)日弁連交通事故相談センター三重県支部相談員・鈴鹿市役所市民法律相談担当弁護士

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。

四日市の



このコーナーでは、公認のものから非公認、詳しい統計のあるものからないものまで、四日市が日本一と思われるものを紹介します。

からくり人形の大きさ

おにゅう どう だし 大入道山車 (県指定 有形民俗文化財)

白黒のどてらに赤い帯、首は伸びたり曲がったり。
目玉がぎよろぎよろ動き、長い舌をペロリと出して愛嬌をふりまく大入道は、日本一大きなからくり人形です。



大入道山車保存会会長(人形師) ^{いえきひろみつ}家城宏光さんに、大入道の山車蔵で話を聞きました。



Q. 日本一大きいからくり人形 大入道のいわれは？

昔、旧桶之町(現在の^{きゅうおけのまち}中納屋町)付近に住んでいた、人を化かしていたずらするタヌキを退治するために大入道を作り、タヌキと化かし合いをするうちに、どんどん大きな大入道になっていったと言われています。

現在の大入道は、文化2年(1805年 江戸時代後期)に、名古屋の人形師が制作したものと言われており、身の丈4.5m、ろくろ首の長さ2.7m、1.8mの台座の上に立つ姿は、全高9m。日本一大きなからくり人形です。

Q. どうやって動かしているのですか？

台座の中に6人(銅鑼と太鼓を鳴らす人が1人ずつ、体を動かす人が1人、大入道の目と舌を動かす人が1人、首を動かす人が2人)入っています。また、大入道の中にも2人入っていて、片腕ずつ動かしています。ろくろ首は、^{けいつい}頸椎にも似た、12個の木でできた骨組みからできていて、中に鯨のひげが入っています。明治2年までは、首がまっすぐにしか伸びなかったのですが、弾力のある鯨のひげを使うことで、首がS字に曲がるようになりました。

Q. 大四日市まつりでの見所は？

大入道の首や腕、顔の表情など、複数の滑車に巻きつけたロープを操って、全て人力で動かしています。銅鑼や太鼓のリズムに合わせて、両腕を大きく振りながら、長く伸ばした首が一気に倒れる時の迫力、舌を出して目をむき、眉毛を動かす表情のおもしろさなど、8人の人形師が息を合わせて演技するハーモニーを感じてもらえればと思います。



鯨のひげをもつ家城さん
後ろは、どてらを着る前の
大入道の胴体と台座です

有料
広告
掲載
欄

くわしん

カーライフローン

キャンペーン実施中

平成24年4月2日(月)～平成24年9月28日(金)

新車・中古車の購入、車検・修理費用、免許取得費用などお車に関する資金に

お気軽に窓口まで、お問い合わせください。  **桑名信用金庫**

四日市西支店
351-2577
生桑支店
332-8181
羽津支店
332-2233
大矢知支店
364-3311

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。

四日市の おいしいレシピ

地元野菜を使った

～おいしいレシピ～

とうもろこしのポトフ

材料 (4人分)

トウモロコシ1本、ジャガイモ2個、ニンジン1本、タマネギ1個、キャベツ1/4個、鶏もも肉1枚、酒大さじ1、ローリエ1枚、塩小さじ1、こしょう少々



作り方

- ①トウモロコシは3センチの長さにカットする。
- ②ジャガイモは皮をむいて水にさらし、乱切りにする。ニンジンも皮付きのまま乱切りにする。
- ③タマネギは皮をむいて大きめのくし切りにする。
- ④キャベツは大きめのくし切りにする。
- ⑤鶏もも肉は一口大に切り、鍋に800ccの水、酒、ローリエとともに加え火にかける。沸騰したらアクを取り除き、野菜を加え柔らかくなるまで弱火で加熱する。
- ⑥野菜が柔らかくなったら塩、こしょうで味を整えて出来上がり。

四日市ならではのメニューや地元で生産された農産物のおいしいレシピを紹介します。

四日市のトウモロコシは…

おもに神前地区や県地区で生産されています。まだ薄暗い早朝に収穫した朝どりトウモロコシは、すぐに市内スーパーやJAの直売所に出荷されます。収穫したその日のうちに食べるトウモロコシは、みずみずしく、糖度が高いため、甘くてとてもおいしいです。ぜひ食べてみてください。

こだわりのポイント

苗を2本植えたものから育ちのいい方を1本残します。さらに、通常1本から2～3個実がなるところを1個に間引きします。こうすると、甘みが増して、おいしくなります。



高角町 内田さんの畑にて

ちょこっとレシピ

焼きもろこしご飯

材料(4人分) トウモロコシ1本、調味料(しょうゆ大さじ1、みりん大さじ1/2) 炊きたてのご飯2合分

- 作り方
- ①トウモロコシは3等分に切り、軽く茹でる。
 - ②調味料を塗りながらフライパンまたはグリルで焼き色をつけ、冷めたら包丁でこそげ、調味料を煮詰める。
 - ③ご飯にトウモロコシの粒と煮詰めた調味料を混ぜて出来上がり
- ※ポイントは炊きたてのご飯に混ぜること!



今回のレシピ提供：男の料理教室講師 吉武奈穂子さん



内田さんの取材は、市役所で職場体験中だった保々中学校 樋口大聖^{たいせい}さんが担当しました。

有料広告掲載欄

高齢者専門宅配弁当

宅配123
C O K ワン・ツウ・スリー

お弁当お届け時に安否の確認も行なっております。

すこやかな食生活のお手伝い

美味しく栄養バランスのとれたお弁当で
いつまでも健康に暮らしましょう!!

株式会社 ケア・プラザ三重
四日市店 510-0064 四日市市新正4丁目15-10

TEL 059-354-1165

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。

外国人市民とともに暮らすまちづくり 人権のひろば～人権・同和教育シリーズ～



本市には、約8,300人の外国人市民が暮らしています。学校に通う留学生も多く、特に四日市大学には5カ国290人の留学生が在籍しています。地域の小・中学校やシンポジウムなどで母国のことを紹介したり、地域の人々と交流を深め、互いの文化や習慣などの違いを理解し合ったりするきっかけづくりなどに励んでいます。最近では、卒業後も日本で生活する人が多くなりました。

8年前に中国から来日し、四日市大学を卒業したKさんも、迷わず日本での就職を決めました。「日本、特に四日市が好き。日本人はとても親

切で、道に迷った時に知らない私を家まで送ってくれた。また、日本の社会は平等な機会を与えてくれる」と言います。

【違いを認め、尊重し合うために】

Kさんには、市が主催する「四日市市多文化共生推進市民懇談会」の委員を務めていただき、「普段から外国人との付き合いがない日本人は、身構えてしまい、仲良くなるまでに時間がかかるので、少しずつ交流を進めることが大事」と課題についても意見を出していただきました。

地域に暮らす者同士がともに助け合う社会を築くには、何が必要かを

考え、行動していくことが大切です。言葉や文化、国籍の違いを越え、それぞれの意見を交わし合い、違いを認め尊重し合える社会を目指しましょう。



四日市大学の「持続可能な多文化共生を考える」グループディスカッション

お問い合わせ先
多文化共生推進室
(☎354-8114 FAX354-4873)

表紙こぼれ話

今回は、自転車競技で全国屈指の実力を有し、プロの競輪選手も輩出している朝明高等学校自転車競技部の皆さんを、練習場である四日市競輪場に訪ねました。



インターハイ優勝など、それぞれの目標に向かって日々、厳しい練習を重ねている選手の皆さん。

今回は、チームを引っ張る頼もしい3年生の皆さんに、意気込みや目標を聞きました。

今年度の表紙のテーマは、「スポーツで頑張る市民」です。全12回さまざまな種目のスポーツに打ち込む人々をご紹介します。



写真左から、堀田海人くん、下岡真也くん、川浦祐太くん、瀬古祐太くん

■堀田くん インターハイでは、自己ベストを出して優勝したいです。悔いの残らないように、頑張りたいです。

■下岡くん 怪我をして、三重県高校総体にいられず悔しい思いをした分、インターハイでは、上位を目指して必死にもがきたいです。

■川浦くん インターハイでは、日々の練習で培った力を出し切りしたいと思います。将来は、小学生からの夢、競輪選手になりたいです。

■瀬古くん 僕は、車輪サイズ20インチの競技用自転車を使う競技、BMXをしています。昨年はアジア大会ジュニア男子の部で2位になりました。目標は、全日本チャンピオンです。

取材後記

取材当日、四日市競輪場のバンクを走る選手の皆さんは、常に緊張感と集中力をもって、真剣なまなざし。

しっかり前を見据えて目標に向かう姿に、とても心を打たれました。

お問い合わせ先
広報広聴課
(☎354-8244 FAX354-3974)

有料広告掲載欄

エネルギーと夢とともに50年



LPガスと太陽光発電など、複数のエネルギーを有効に組み合わせ、エコと快適を両立したライフスタイルをご提案します。

エネルギーと住まいの **朝日ガスエナジー株式会社**

TEL: 059-332-2311

四日市市西坂部町4789-2

URL: <http://www.asahigas.co.jp>

E-mail: info@asahigas.co.jp

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。

■人口 314,304人 [5月末日現在(+230)] ■火災件数 11件 [5月分(+6)] ■交通事故件数 874件 [5月分(-18)] (前年比)